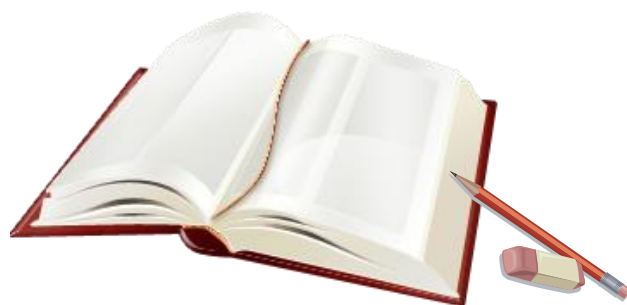


第6回『泉大津市オリアム^{エッセイ}随筆賞』

応募要領



この随筆賞の「オリアム」とは、泉大津市の特産品である毛布・ニット・毛織物などを連想させる「織」と「編」に由来しています。

平成 29 年 6 月

泉大津市 地域経済課

1. 目的

国内生産の約9割を占める毛布をはじめ、ニット製品や毛織物を生産する「繊維のまち・泉大津」を全国へPRすることにより、地域産業の活性化を図ります。

2. 主催等

主催： 泉大津市 後援： 泉大津商工会議所

3. 募集期間

平成 29 年 6 月 1 日（木）～9 月 29 日（金） ※ 9 月 29 日（金）17:15 必着

4. 応募資格

制限はありません。（最優秀賞（オリアム^{エッセイ}随筆賞）受賞者を除く）

5. テーマ

衣服や繊維製品にまつわる思い出や感動したことなど、“繊維製品”に触れる内容にしてください。

6. 応募作品

- 応募者オリジナルの未発表と認められるエッセイで、日本語で書いたものに限り、また、他の賞などへの二重送稿された作品は不可とします。
※エッセイとは、暮らしの中で感じたこと、経験や意見を表現した文章をいいます。
- 作品の中で“繊維製品”に触れてください。
- 400 字詰原稿用紙（A4）5 枚。
- 用紙の 1 行目に作品タイトルを、2 行目から本文を記載してください。氏名の記載は不要です。
- パソコン推奨設定：ワードの原稿用紙設定を 20 字×20 行、文字の大きさは 12 ポイント程度、用紙の上下左右の余白はそれぞれ 3 cm 程度、右綴じ、縦書きで A4 横判、下余白中央部分に通し番号（1～5）を記載してください。

7. 応募点数

一人 2 作品までとします。

8. 応募方法

- 所定の応募用紙に必要事項を記入の上、「14. 問い合わせ先」に記載の場所に持参または郵送するか、次のメールアドレスに電子メールで送信してください。

○メールアドレス：essay@city.izumiotsu.osaka.jp

※ 応募用紙は市のホームページからダウンロード可能。

(<http://www.city.izumiotsu.lg.jp/kakuka/sogoseisaku/tiikikeizaika/ibento/1368436412968.html>)

9. 選考

- 最終選考については、次の選考委員により決定します。
有栖川有栖氏、木津川計氏、難波利三氏、眉村卓氏（50音順）
なお、選考に関するお問い合わせには応じられません。

10. 賞金等

- 最優秀賞（オリアム^{エッセイ}随筆賞） 1 作品 （賞金 50 万円・賞状）
- 優 秀 賞 2 作品 （賞金 5 万円・賞状）
- 佳 作 3 作品 （賞金 3 万円・賞状）
- 泉大津市長賞 1 作品 （泉大津市特産品 2 万円相当・賞状）

賞状と副賞は表彰式で贈呈します。賞金は後日振込します。また、最優秀賞及び優秀賞の作品は、雑誌『大阪春秋』に掲載する予定です。

なお、泉大津市長賞は、泉大津市在住者の応募作品を対象とします。

11. 発表

- 平成 29 年 12 月頃に泉大津市ホームページへ掲載し、平成 30 年 2 月号広報紙で発表（氏名、住所（市区町村名まで）及び年齢等）する予定です。また、入賞者には通知しますが、入賞者以外には通知しません。

なお、入賞者は、報道機関等にも記事提供しますので、場合により顔写真の提供をお願いする場合があります。

12. 表彰式

- 入賞者の表彰式は、平成 30 年 3 月頃に選考委員をパネリストに迎えたディスカッション形式の文学フォーラムとあわせて行います。

なお、入賞者には、原則として表彰式及び文学フォーラムへのご出席をお願いいたします。

13. 注意事項

- 応募作品は、著作権や肖像権に抵触しないように注意してください。応募作品にこれらの問題が発生しても、泉大津市には一切関係なく、その責任・解決は全て応募者が負うものとなります。
- 入賞作品の著作権は泉大津市に帰属し、応募作品は返却しません。
- 応募者オリジナルの未発表作品でないと判明した場合は、賞金と賞状を返還するものとなります。

14. 問い合わせ先

- 泉大津市総合政策部 地域経済課
〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町 9 番 12 号（泉大津市役所）
TEL 0725-33-1131（代表） FAX 0725-32-6000

【選考委員プロフィール】

<有栖川 有栖>



ミステリーの最前線で活躍している代表的な推理作家。昭和34年、大阪市生まれ。同志社大学法学部卒。卒業後、書店勤務の傍ら作家として活動し、35歳のとき書店を退職。

平成15年、「マレー鉄道の謎」で日本推理作家協会賞、平成20年、「女王国の城」で第8回本格ミステリ大賞を受賞。

大阪に在住し、大阪を舞台にした作品も多い。作品の多くは中国、台湾、韓国でも翻訳出版され、TVドラマの原作にもなっている。現在まで、数々の文学賞選考委員を務めている。

<難波 利三>



昭和59年、「てんのじ村」で第91回直木賞受賞。現在、日本文芸家協会会員、日本ペンクラブ会員、出身地の島根県大田市で、新しい文化の創造と交流事業の拡大を目的として創設された「難波利三・ふるさと文芸賞」の審査委員長を務める。

主な著作に「てんのじ村」「大阪希望館」「舞台の恋人」「小説吉本興業」「私の大阪散歩」などがある。近年、大阪の文化振興、町づくりに積極的に関わっている。

<木津川 計>



昭和43年に自ら創刊した雑誌『上方芸能』は京阪神の芸能や大阪文化を幅広く紹介、論評する専門誌として、上方芸能界の課題を提示し続けてきたが、平成28年6月号をもって終刊となり、約半世紀にわたる歴史に幕を閉じた。

元立命館大学教授。現在は兵庫県川西市生涯学習短期大学名誉学長などを務める。NHKラジオ（関西エリア）で「ラジオエッセイ」を毎週1回レギュラー担当して36年目、大阪弁のやわらかい語りファンも多い。京都市芸術功労賞。菊池寛賞（平成10年）他を受賞。

<眉村 卓>



がんを宣告された妻に5年間自作のショート・ショートを書き続けた実話をもとにした映画が平成23年1月に公開され、その夫婦愛が感動を呼んだ。大阪大学経済学部卒。会社勤めをしながらSF同人誌に参加。

昭和36年、第1回空想科学小説コンテストで佳作入選し、デビュー。昭和54年、「消滅の光輪」で泉鏡花文学賞、昭和62年、「夕焼けの回転木馬」で日本文芸大賞を受賞。日本ペンクラブ副会長を歴任し、現在、平安女学院大学客員教授。